
Kanon
Five girls are waiting in the town covered with the snow. While concealing a true wish on the other side of the smile... . The story of a very wonderful miracle though this is small.
ホントの想いは笑顔の向こう側に 1
COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ORIGINAL: Key
Nayuki Minase
Kanon
カノン
Kadokawa Comics Dragon Jr.



Kanon

Five girls are waiting in the town covered with the snow. While concealing a true wish on the other side of the smile... . The story of a very wonderful miracle though this is small.

ホントの想いは笑顔の向こう側に 1

COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ORIGINAL: Key


Kanon
COMIC: 霜月絹鯊
SHIMOTSUKI KINUSA
ORIGINAL: Key
ホントの想いは笑顔の向こう側に 1
irls are waiting in the town
the smile... . The story of
concealing a true wish on the other
this is small.
Nayuki Minase
Ayu
Tsukimiya
Kanon
カノン

C O N T E N T S

Chapter 1 [水瀬名雪(前編)] 3

Chapter 2 [水瀬名雪(後編)] 49

Extra Chapter 1 [each hope] 89

Extra Chapter 2 [雪うさぎ日和] 95

Extra Chapter 3 [星に願いを] 107

Extra Chapter 4 [それぞれの物語へ] 119

Special [特別対談 樋上いたる×霜月絹鯊] 125



あの日から
7回目の冬が来て

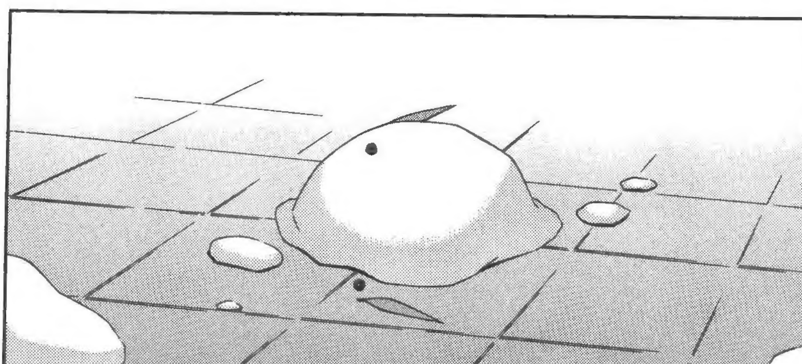
またこの街は
雪に包まれる

悲しい記憶も
辛い思い出も
大切な気持ちも

すべて覆い隠すように

白く

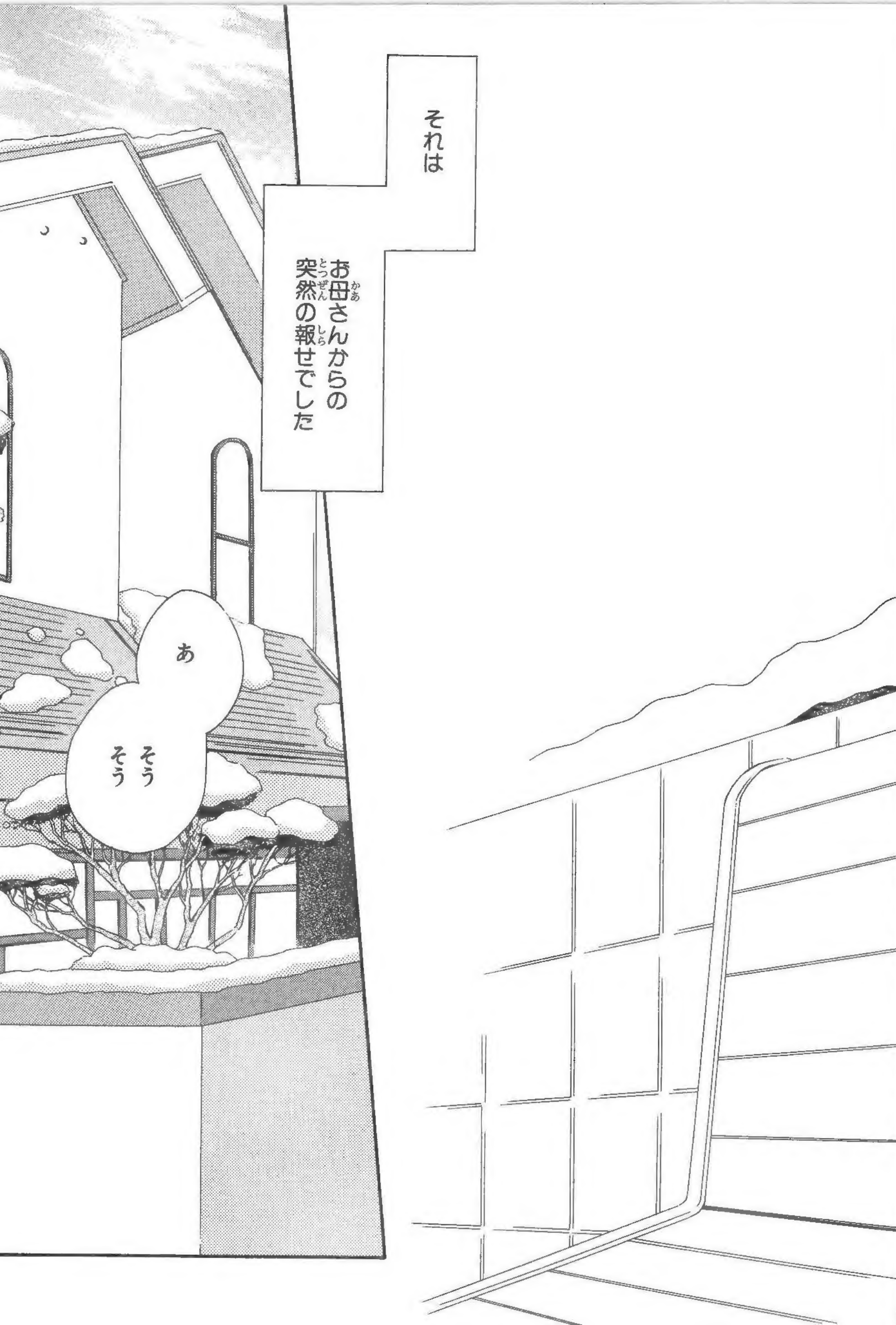
白く



Chapter 1 ［水瀬名雪(前編)］



Chapter 1 ［水瀬名雪(前編)］


それは
お母さんからの突然の報せでした
あ
そう そう


あのね
名雪
今度ね
祐一さん
うちで預かる
事になったから
・・・。



……え?
それでね 名雪の部屋の隣 空いてるでしょう? あの部屋 祐一さんの部屋に するけど いいわよね?
…祐一って… ……祐一?
ええ
わたしのいとこの?
ええ
急だね……
ええ あちらのお家で 急に海外転勤が 決まってね 祐一さんだけ 1人 残る事に なったんですって
この街なら 祐一さんも昔 住んでいたし 丁度いいからって 事になったの
ふぅん……
わたしのいとこの 祐一こと 相沢祐一くんは



昔 この街に
住んでいた頃
同い年な事もあって
よく一緒に遊んだ
一番仲のいい男の子でした
そんな彼が
また この街に
帰ってくると
いうのは
名雪も7年ぶりに
祐一さんに会えるの
嬉しいでしょ？
とても
喜ばしい事……
う
うん……
まぁ…
の
はず
どんな男の子に
成長しているかしらね
なんだけど……


なんだけど……
……ね 祐一
7年前
ほら…… これって雪うさぎって言うんだよ
わたしが作ったんだよ
あのね 祐一
これ 受け取ってもらえるかな
明日から また しばらく 会えなくなっちゃうけど
でも
季節が巡って
また この街に雪が降り始めたとき……
また
会いに来てくれるよね？


ずっと言えなかったけど　わたし
祐一の事ずっと
好きだったよ――……
ぱしっ
……祐一……？


あ…
ご…
ごめん…ね
祐一……
雪嫌いなんだよね……
ごめんね
祐一……
ごめんね……
わたしが
悪いんだよね……
でも…
さっきの言葉……
どうしても
もう一度
言いたいから
帰る前に
少しでいいから
明日
ここで
会ってくれる?
ちゃんと
お別れ
言いたいから


ずっと……
待ってるから……
お願い
祐一……
でも
祐一は
来なかった
あんな事が
あつて
もぞ…
どんな顔して
会えば……
あ
名雪
祐一さんの事
迎えに行って
あげてね
ガんっ
は
え!?
……
……ど


どうしよう……
……とか悩んでる間に
当日になっちゃったよ……
は
はやい…
もう待ち合わせ時間……
とっくに過ぎてるよね……
……来るものは来ちゃったんだから
ウジウジしてても仕方ないんだって
わかってる……
わたし ふぁいとっ
ぐっ


はぁ
……あ……
祐一……
だ……
本当に
祐一が帰って
来たんだ……
へっぷしっ


頑張れ わたし
ふぁいと
ゆ
ゆき つもってるよ
??
遅いっ
雪だって積もるさ
2時間も待ってりゃな
だ
よ?


えっと……今何時？
あれ？
3時っ
わ…まだ2時くらいだと思ってたよ……
びっくり。
待ち合わせは1時だ
それでも1時間の遅刻だからな？
こっちがびっくりだ。
もしかして
え えっと……
じゃあ お詫びにコーヒーでもおごるよ
再会のお祝いも兼ねて
あっちに自販機あるから
祐一……
忘れてる？
おまえな！
7年ぶりの再会が缶コーヒー1本かよ
ずる！
……ねえ 祐一
わたしの名前 まだ覚えてる？


……
ドキ ドキ
花子
ずぎゃ〜ん
イヤ 次郎？
さて そろそろ 行くか
名雪
あ……


うん！
ああ
やっぱり
祐一だ
道わかるの？
わからん
わかってりゃ迎えなんか呼ばんだろ
変わってない
笑顔で過ごせた
あの頃と同じ――…



もしも祐一が
あの日の事本当に忘れているのなら
それなら
その方がいいのかな
そうすれば
何事もなかったかのように
笑っていられるから


でも……
ねえ 祐一 この街には慣れた?
ふあ～
んあ?
ん――…まぁ 少しは慣れたけど
やっぱ寒いな 俺 雪好きじゃないし
祐一が
仕方ないよ 今は冬なんだし
わたしだって ずっと この街に住んでるけど 寒いものは寒いよ
でも 祐一だって 昔は ここに住んでたんだし……
嫌いなのは
雪じゃなくて――……
あ― そうだけど 正直 あんまり覚えてない


で
でも この道とか……
覚えてない
7年前の
あの時の……
祐……
あれっ
祐一くん？
あ
え……
あ
やっぱりそうだ
あゆ！
偶然だねっ



あ
紹介するな 俺のいとこの名雪
誰…？
んで名雪 こいつはあゆ
……祐一の友達？
あ～ 友達っつか腐れ縁？
うぐぅっ 腐ってないよっ
えっと
よろしくね名雪さん
――…うん よろしくねあゆちゃん
……腐れ縁……


ずくん…
え…と
わたし
先に行くね
あゆちゃんもまたねっ
おい
名雪？
腐れ縁
そっか……
昔からの友達なんだ
昔この街にいた頃からの
あゆちゃんの事は覚えてるのに
わたしとの思い出は
あの日の事は
忘れてるんだね
祐一……
はぁ…
――…でも
それは仕方のない事なのかもしれない
あの時
わたしは
祐一を救うことはできなかったのだから
――7年前



祐一には
とても仲のいい
女の子がいて
わたしは
少しだけ
寂しかった
そして冬の終わり
とても悲しい
あの事故が起きて
祐一は
すべてを拒絶してしまった
悲しみから
逃げるように
この街も
雪も
思い出も
わたしの事も
でも それは仕方のない――…
おいっ
ぐいっ
わ!?


名雪
どうしたんだよ
いきなり
なんか様子
変だ――……
ゆ…
祐一…?
って
なんて顔
してんだよ?
え…
あ……
なんでも
ない…よ
なんでもなきゃ
そんな顔
しないだろ
どうしたんだよ
……祐一には
関係ないよ
………
すねてる?
ぷーーー…


……
？
？
……
あー もー
わけわかんないけど
放課後 何か
おごってやるから
ポフ
機嫌直せ
な？
……ほんと？
ああ
何が
いい？
……


ん.
やっぱり美味しい わたし幸せ
……ゲンキンなやつ
だって本当に美味しいから……
はいはい 満足するまで食うがいいさ——
祐一も食べてみればわかるよ
食わず嫌い良くないよ
や だからな?
いんや 俺はコーヒーだけでいい
俺はお前が食ってるの見てるだけで
すすす
充——……


ってえ!?
うおっ!?
ガタッ
うおっ
一口あげるー
食べてみて
お
お前
なあっ
?
美味しいよ?
……………
コイツ…
え…
わ?
ぐいー
……
あー
もー……
気にしてんの
俺だけかよ……
ちくしょー…


ぱく。
んーー
まぁ 確かに 不味くはないな…
でしょ…?
……
まぁ
名雪が間接キスとか気にするわけないか
何も考えてなさそうだしな
うん


間接キ……
ス……？
かっ
わ……
ぼっ
……っ……!?


おっ
おまっ 何真っ赤になってんだよう
だっ だってっ
そんなふうに意識されてるなんて
赤くなるな青くなれ!
ム ムリだよー
思ってなかったんだよ……
う 美味かったな!
ニコッ
うんっ ありがとう祐一っ
か 帰るか!
う うんっ
………
ん?


……
おーーい 名雪ーー？
いつのまに…
何やってんだーー？
なんだよ 猫でもいるのか？
猫はさわるなよ お前猫アレルギーなん……
雪うさぎ…？
壊されてるけど…
…うん
うさぎさん 直してあげないと
おい そんな事してると帰るの遅くなるぞ
でも… かわいそうだから……
……



俺も手伝う
!
……ありがとう祐一
お前はとろいから1人だと夜になっちまうだろ
うん……
――…
――…
なぁ名雪


お前さ……
前にも
俺に——……
え…？
……祐一？
はっ
あ
悪い
なんでもない……
……そう
祐一は
思い出さない
……


思い出す
わけない
もう
きっと
二度と……
雪が　降ってる
ああ　これは夢
あの日の　　夢


あの日のわたし
待って
待って
待ち続けて
待ちくたびれて
早く来て
祐一
早く
来てくれないと
忘れちゃう
だけど
真っ白な雪に
埋もれて
消えちゃうよ


祐一に伝えたかった言葉が
祐一は来ない
『あのね　わたし』
消えちゃうよ
『祐一の事　ずっと……』


消えちゃうよ……
はあ
どきっ
名雪
名雪──
起きてるか？
コン
コン
ゆ…祐一…？
あのさ名雪
今日 時間あるか？
付き合ってほしい場所があるんだ
……？


祐一 どこ行くの？
ん 約束の場所
約束…？
どうしようもなく馬鹿な男が約束をすっぽかした場所だ
え……？
祐一…？
俺は謝らないといけないんだ その女の子に心から
……


……わたし
この場所にはあんまり来ないんだ
この街から出る事もほとんどなかったし……
それに
ずっと待ってしまいそうだったから……
もう来るはずがないって
わかってる人を……
わたし馬鹿なんだよ


昔の事ずっと引きずって
ほんと馬鹿だよ……
……ごめんな名雪
本当にごめん……
…ダメ…だよ……
ダメだよ祐一……



祐一に言いたかった言葉……
あの日真っ白な雪の中で
もう忘れちゃったよ……
……でも気付いてしまったんだ


大馬鹿者の男は
自分の想いに
祐一…？
仲のいい
いとことしてじゃなくて
大切な
1人の女の子として


俺は


名雪の事が好きだ


…………
……っ……
ひどいよ……
今頃……
そんな事言うなんて
ずるいよ……
………


わたし……
わからないよ……
今になって突然そんな事言われても
わからないよ…！
もう二度と思い出さないと思ってたのに――…


突然(とつぜん)
こんなの
今(いま)さら　そんなの
わからないよ——……



Chapter 2 ［水瀬名雪(後編)］


せっかく
また
笑えるように
なれたのに
どうして
祐一は
今さら
あんな事を
言ったんだろう
「名雪の事が
好きだ」
7年前
わたしを
拒絶したくせに
カタ…
名雪
…


……祐一
隣……
いいか？
…………
……うん……
……俺さ
自分の事しか
考えてなかったよな
昔も今も



名雪を傷付けて ひどい事して それなのに 自分のした事さえ 忘れて
最低だよな 本当に ……本当に ごめんな
…… いいよ もう……
……
名雪 あのさ どんな……気持ちだった?
俺が この街に 帰って来て 名雪が 迎えに 来てくれた あの日
名雪は どんな気持ちだったのかって


ずっと考えてて
俺があれだけの事をしたのに お前は笑顔で迎えてくれたから
それは……
祐一が忘れていたから
そうすれば昔みたいに笑って一緒にいられると思って
そう思って——……
……
……俺さ
名雪のおかげで また……この街が好きになれたんだ
え……



7年前
自分から逃げ出して
忘れてしまうほど
拒絶した この街に
今は ずっと
いたいと思ってる
それは
名雪が
いるからだ
俺が
自分のした事を
思い出せたのは
名雪と向き合って
謝るためだと思う
そうしないと
ずっと
変わらないから
……やめて
…めて
名雪
俺は
やめてよ……！
わたし
いやだよ
変わりたく
ないよ……
せっかく


笑えるようになれたのに
わたしは今のままでいいの
だから変えないで
変えようとしないでよ祐一……!
けどそれじゃお前……っ
……お願い祐一
わたし
笑えなくなるのいやだよ……
名雪お前……
グッ



わたし もう 寝るから
おやすみなさい 祐一
また 明日ね
これで いい
変わらなければ
笑っていられる
だから
これで いい……


大丈夫
こうして
何もなかった
ように過ごせば
祐一だって
きっと忘れて
すぐ また
元のように
戻れる
だから
大丈夫
……
大丈夫……
ねえ
名雪
祐一さんと
何かあった?



え……
な
何もないよ
どうして？
……
最近
2人の様子がおかしい気がしたから
何かあったのかなって思ったの
……
……大丈夫だよ
すぐにまた
前みたいに戻るから
本当に？
え？


本当に戻れるの？
戻るだけでいいの？
それは名雪の本心？
……だって
か……変わりたくないよ……
笑えなくなるのはもういやだもの……
…………
どうして
笑えなくなるって決めつけるの？
だ
だってっ……


だって……
……名雪
戻ってばかりじゃ何も進まないわよ
怖いかもしれないけど前に向かって進まなきゃ
お母さんは
名雪の本当の笑顔が見たいわ
わたしの
本当の笑顔……?
あれ


秋子さん？
あら
祐一さん おかえりなさい
秋子さんは これから どこか 行くんですか？
はい ケーキを 買いに
ケーキ？
……？
今日って 何か ありました？
あれ？
いいえ 特には
けれど 特別な日に なればいいなと 思っています
？
？
祐一さん 帰ったら 名雪に 伝えて もらえます？


ケーキを買って来るので帰ったら3人で楽しく食べましょうって
わたしの笑顔……
ちゃんと笑えてるよね？わたし……
へらっ
……
……
ただいまー
びくっ


び
びっくりした……
ドキドキドキドキドキドキ
……と
えっと
おかえりなさい
笑顔笑顔
………
ただいま
秋子さんに途中で会ってさ
なんか……ケーキ買ってくるって
ケーキ?
……で……
3人で楽しく食べよう
……ってさ
!


……
「名雪
お母さんは」
「名雪の」
「本当の笑顔が
見たいわ」
じゃあ
俺 部屋に……
ま
待って
祐一!
……待って
本当に!?
お母さん
変わるのは
……あのね……
あのね
わたしっ……
悪くない事?
TR


ヴルゥ
RRRRRRRRRRRRRRRRRRRR
しくしく
ご ごめん 電話…… 出てもらえるかな
お？ おう
タ タイミング悪い……
はい もしもし 水瀬です ……は？
え 何……
あの ちょい待っ……
…………？
そ それ 本当の事ですか？
は はい
……何？
わかりました すぐ行きます
……名雪


秋子さんが……事故に遭ったたって……
……
……え？
何それ



何これ
現実？
なんで……
なんで？
……ただいま
カチャ



……
フラ…
ガタッ
！
名雪っ
名雪
大丈夫か……
……わたしのせいだ……
お母さんが事故に遭ったの



何言ってんだ 名雪のせいなわけないだろ?
だって わたしのために気をつかって お母さんはケーキを……
違う 事故だ 名雪!
これは事故なんだって
でも! その原因作ったのわたしだよ!
なんで
なんで こうなるの?!
わたしは ただ 祐一と笑って過ごせるようになれたから
わたしが望むと
全部、悪い方向へ
進む
だから 変わりたくないって
昔みたいに一緒にいたいって
そう思っただけなのに
名雪……
それもだめなら
わたし
もう 何もいらない!!
なら
もう 何も望まない



いらないよ……！
何も望まない――……！
――……あ
はい
はい　そうです
……そうですか　まだ……
……はい
よろしくお願いします……
カチャ…
……っ……
しっかりしろよ　俺……！
グッ…



なゆきの
コンコン
名雪
起きてるか？
入るぞ
キィ…
名雪
祐一……
メシ作ってきたぞ
……いらない



そうは言ってもなあ
昨日も食ってないだろ お前
やめて
そんなんじゃ体壊すぞ
ほら まだ出来立てで温かいから
冷めないうちに食ってくれよ な?
……いらない
やめて
…………
ダメだって そんなじゃ
秋子さんが帰って来た時悲しむぞ ほら
おにぎりだけでも な?


やめて!!
いらないいってば!!
ぱしっ
は
ぼとっ



あちゃー…!
ーー……
…
あ……
ーー……
……大丈夫
そっ…
おにぎりなら
まだ あるし
俺も……
平気だから
気にするな
名雪
わたし……


気にするな
…………
なゆきの
カラッ


俺は 今日一日 あの場所で
名雪
名雪が来るのを 待ってる
7年前 名雪が待って いてくれたように
……
今度は俺が 待つよ
……どうして？
……俺が 名雪の側に いたいから かな
……待ってるからな
雪が



雪が
降ってる
まるで
7年前の
あの日みたい
来る事のない
祐一を
待ち続けた
わたし
そう
あの日 祐一は
来なかった
だから
わたしも
行かない
行けない
だって もう
歩けない
動けない
……本当に？
本当に
それで いいの？
……いいよ
祐一が
待ってるのに？


どんな気持ちで待っているか
一番よく知っていて
それなのに繰り返すの？
どんな気持ちで……？
——7年前
わたしは祐一を助けたかった
支えになりたかった
だから待ち続けた
何より祐一の側にいたかったから
「俺が名雪の側にいたいから
……かな」
今は？
祐一の側にいたくないの？
祐一と一緒に……
……いたいよ！


本当は
祐一の側に
一緒にいたいよ
今も
これからだってずっと
じゃあ
勇気を出そうよ
怖がらないで
前を見て
ぜんぶ
あなた次第
なんだよ
わたし
次第……





――……
雪……
積もってるよ


ごめんね
一生懸命走ったんだけど
遅刻だったね……
……
いい
来てくれたから
それだけで
甘いよ
祐一
そんな事言われると
泣いちゃうよ
わたし
いいよ
泣いて



名雪が来てくれたから
これからはずっと一緒だ
名雪が望んでくれるなら
もう どこへも行かない
俺が支えるから
名雪の側にいる


……祐一(ゆういち) 待(ま)っていてくれて ありがとう
……名雪(なゆき)もな
……祐一(ゆういち) 順番(じゅんばん) 逆(ぎゃく)に なっちゃったけど
遅(おく)れた おわび……
それと
わたしの気持(きも)ち……


祐一（ゆういち）



大好きだよ……
あのね 夢を見たの
子どもの頃の わたしから雪うさぎを 差し出されて わたしは それを 受け取るの
今なら はっきり わかるんだ あの雪うさぎが なんだったのか
………なんだったんだ？
ひみつ
オイ



描いてほしくて言ったんじゃないのか
きっと あの雪うさぎは わたしのホントの気持ち
祐一が好き 大好き
これからもずっと 一緒にいたい
それがわたしのホントの気持ち
祐一ほどじゃないよー
なにおぅ
それを受け入れる事ができたから
お
秋子さんだ
ほんとだ
前を向いて進める


んじゃ 行くか
うん！
ホントの想いの
ホントの笑顔で



お母さん準備できた――?
忘れ物ない?
にっこ…
ええ大丈夫よ
Extra Chapter 1 [each hope]
退院おめでとうお母さん
おめでとうございます
そう



今日は お母さんの 退院の日です
荷物 持ちますよ
あら
一時は危ないと 言われましたが
今では すっかり 元気になりました
全部 オッケーっす
重いけど 大丈夫ですか？
……
ふに ふに
ほわ…
嬉しいです
あ
桜


本当ね
まだ五分ってとこかな 来週あたり満開になりそうだね——
ついこの間まで雪でいっぱいだったのにねぇ……
もう春なのねぇ……
へらっ
えへへっ
あら なあに？名雪
ん——ん なんでもないよ——


退院祝いのケーキが楽しみで仕方ないんだよな～
はっ
い
いちご、でもそれだけじゃないよね？
はいはい
早く帰って食おーな
ぷーー！
ゆーいち
ばかにしてる？
してない してない
名雪さん
祐一さん
ん？


2人共幸せ？
はい
もちろん♪


隣には 祐一と お母さん
そして
来週あたり みんなで お花見でも しましょうか
さんせーっ
遅い春は もう すぐそこに


いや はや
Extra Chapter 2 [雪うさぎ日和]
今日も絶好調に寒いですな
ですな――
俺的にはこんな日には暖かい室内でコタツにもぐってテレビを見ながらみかんでも貪りつつ日がな一日ダラダラ過ごす というのがベストなんだが
どうよ
どうもなにも
不健康だよ 祐一
ぶぇっくしっ
大丈夫?
……あー
つまりだな 俺が言いたいのは



Extra Chapter 2 ［雪うさぎ日和］
なんで俺らこんな多人数で雪遊びしてるんだろうな
ってことなんだが。


とつぜんですがっ
みんなで雪合戦をしまーーす!!
はいっ
なんでだよ
ほんといきなりな
なぜならそれは雪があるから!
えっへん
よーするに思いつきな
そーかそーかわけわからんがな
せっかくこんなに人いるんだし!
……ほんとよく集まったなコレ……
まぁいい 俺寒いの嫌だからパス 帰……
あ 祐一く――…
べしょっ



真琴（まこと）……
へっへー
んべっ
油断（ゆだん）してるのが
悪（わる）いのよーだ
……
祐一のバーカバーカ
てめェ
覚悟（かくご）しやがれ
真琴（まこと）オ
しぱぱぱぱ
祐一君（ゆういちくん）
ノリノリだね
うん
単純（たんじゅん）だから
そういえば
あゆちゃん
これってルール
どうなってるの？
え
えーと……
チームとか…



じゃあ無難に男女で分かれて――
ハーーイ
待たんかい
う?
どうしたの?
どうしたもこうしたも!!
男は俺1人だろーかっ
……
……
……?
イラッ
ぺくっ
うぐぅっ
ひ ひどいよ祐一君 なんでぶつの――
ひどいのはお前の方だっ
ひーま。


全員対俺って
そんなん雪合戦じゃ
ないだろっ
ぺん
ひ
1人で立ち向かうの
かっこいいよ
うぐぅっ
2度ぶったしーっ
できたー
雪うさぎー
……
わー
可愛いですねー
……
別のことしてるっ…
ポワァ
ボクも作るっ
てーっ
オイコラ
言い出しっぺ
わー
……
わや
わや
……
まあ
いいか


…………
……………
………
それにしても……
見事なカオスになりつつあるなぁ……
栞と香里の雪だるまはともかく
顔どうする？
えっと…
名雪の雪うさぎの大群も まぁ良しとして
ほんと好きだな
……ノーコメント
にくまん！
タイヤキ！
できましたー


うわあ……
シャラー
雪うさぎさんです
……私もできた
はっ
うさぎさんかまくら
どん
舞すごーい!!
こうちも大作!!
でかっ


……佐祐理の方がすごい
そんなことないよー
でもありがとっ
あんたら2人ともすごいです
やっぱタダモンじゃないなあの2人……
……
祐一
くい。
んあ?
祐一は何か作らないの?
楽しいよ作ろうよ



でも
めんどいし――
プイッ
作らないと
仲間外れっぽいよ
祐一
みんな作ってるのに
……
ポワァ
――……っ
わぁったよっ
作りゃ
いいんだろ
作りゃっ
祐一？
……？


ほらよっ
ぽん。
今日は楽しかったね――
まーなっ
結局雪合戦はしなかったしな
雪うさぎたくさんで嬉しかったー!
……だろうなぁ


……カメラ
持ってくれば良かったね
そうすれば写真撮れたのにな
……別に
いいだろ
忘れなきゃいいんだし
いつまでだって残るだろ
忘れそうもないし あんな強烈なの
心のフィルムに——……
ってな
祐一ってばくさい台詞ー
なにおう


Extra Chapter 3 ［星に願いを］


今日は星の降る日です
わーー
すごい星っ
ここなら きっと よく見えるよ
ね 祐一！
……
帰る
え
嫌だ 寒い
なんで こんな時間に こんなところ 来てんだ 俺
くるっ
わ わ
流星群 見たいって 言ったの 祐一だよっ


確かに言ったが
こんな寒いとは聞いてない サギだ 訴えてやる
誰に――…
あら 名雪に相沢君じゃない
あ
香里! とみんな
こんばんは
……珍しい組み合わせだな……
そこで一緒になったんですよ――
なんだ お前らもわざわざ来たのか? 流星群見に
ご苦労なこった
その台詞そっくりそのまま返すわよ 相沢君
……
? なんだよ
いや 邪魔したかしらと思って
な


？
全然邪魔じゃないよ？
数年に一度の事だし
どうせならいい場所から見たいよね
……
そうね——
まあなぁ……
？
？
…それにしても
こういうの大好きそうな奴がいないな
え？
ほら賑やかなの好きそうだろ？
あ
祐一君は願い事とか考えてきた？


あゆ……いつからいたんだお前……
むうっ
最初からいたよっ 気付かないなんてひどいなあ 祐一君はっ
そうは言ってもなぁ あゆも悪いんだぞ
いるならいるで うぐぅって鳴かないと
うぐぅ
えーと あゆちゃん願い事って何かなっ
だってほらっ せっかく流れ星が沢山降るんだよっ
ぱっ
お願い事しないと!
……
なぁ 流れ星と流星群って一緒にしていいもんか?
ボクは タイヤキと～
タイヤキと～
あと タイヤキと
いいんじゃないかな 大事なのは気持ちだよ
そうか…



それにしても……――
本当にすごい星ですね
見渡す限り　満天の星空で　まるで――……っ……
どさっ…
きゃあっ
どべっ
栞っ!?


転んじゃった……
あんたね……
わ
あ……
?
何よ
どうしたの？
………
祐一
祐一
んあ？
……って
お前まで
何してんの
祐一も横に
なってみて
え〜〜〜〜〜？
なんで……
いいから
いいから でね
上を見て


すごいでしょ
ね
星の海


みたい だね
——……
あッ
今 大きいの 流れたっ
あうっ 見逃したーっ
まだ これから 沢山 流れるから


願い事しなきゃっ
願い事っ
願い事はありますか?
それはなんですか?
——祐一は
ん?
祐一はある? 願い事
ん——…… 名雪は?
……
大切な人とこれからも一緒にいられますように
かな
か。


あと――……
………
また
みんなで星を
見られるといいな
あ
それで
祐一の
願い事は
なんなの？
え
あ――…
ん――…


——まあ 名雪と同じ……だな
……じゃあ 祐一の大切な人って誰？
おまっ……
聞くか それを!!


祐一くーー…
あ
Extra Chapter 4 ［それぞれの物語へ］
ん
お あゆ
ひょこっ
あゆちゃん？
な なゆきさん…



お前も今帰りか？
わて
わて
う
うん
そんなとこ……
今日はタイヤキ泥棒じゃないんだな
なっ
ひどいよ
祐一君っ
ぱちっ
？
……
あゆちゃん
タイヤキ
好きなの？
えっ
あっ
う
うんっ



そっか
にこ
?
祐一 タイヤキ買って来てもらっていいかな
は?
!?
わたしと祐一とあゆちゃんとで３人分お金は渡すから
ごそ～
いいいい 金いらん そんくらいおごってやる
いいの？祐一 太っ腹だね
ん――…… つーか……
――!…
んじゃ買ってくるな
うん ありがとう ごめんねー祐一


……あゆちゃんと話があるんだろって見抜かれてるなあ……
祐一って たまにするどいよね
え……
話？
うん……
この間は ごめんね
え……
初めて会った時 変な態度取っちゃったから
あゆちゃんに嫌な思いさせちゃったかなって
ごめんね
あっ う ううん 全然 気にしてないよう
……
ほわ



……良かった
え？
祐一君と名雪さんが
仲良さそうで良かったよ
もしかしたら
目の前のこの女の子にも
祐一との思い出や
大切な過去があったのかもしれない
本当の想いも
――…



その笑顔の向こうに
——…うん
彼女の
彼女だけの物語
ありがとう
でも きっと
それは別の物語
だから
わたしは
わたしの物語を
②巻へつづく

特別対談

原作『Kanon』キャラクターデザイン担当 樋上いたる × コミック版『Kanon』作画担当 霜月絹鯊

コミック版『Kanon』名雪編の完結を記念して、原作『Kanon』キャラクターデザイン担当・樋上いたる氏とコミック版作画担当・霜月絹鯊氏、そしてビジュアルアーツの広報担当・郷地俊昭氏を交え、それぞれが抱く『Kanon』への思いをじっくりと聞いた。

●●●● 2人にとっての水瀬名雪とは？

――霜月さんは、コミック版の名雪をどんなイメージで描かれたんですか？

霜月：名雪って、ゲームでは天然キャラっぽいイメージだったと思いますけど、マンガを描いているうちに、全然天然じゃなくなってしまいましたね。そのあたり心配してたんですけど……。

樋上：そうなんですか？

霜月：原作の印象とは、だいぶ変えちゃったかなと思うんですけど、大丈夫ですか？

樋上：可愛く描いてもらってたので、嬉しいですよ。

霜月：そう言っていただけると、ありがたいですね。

――樋上さんは、名雪をデザインする時、どういう点に注意されましたか？

樋上：名雪に関しては、わりと悩まずに描いたデザインがすんなり通ったので、それほど苦労はしていませんね。早かったですよ。

霜月：ストーリーの中心にいるキャラの方が、決まるのが早いんですか？

樋上：どうかなあ？　最後までメインヒロインのデザインが決まらなかった事もありますよ。他のキャラがどんどん決まるのに、メインヒロインだけ最後になってしまった事もあります。

――キャラクターデザインで、難しいポイントは何でしょう？

樋上：ある程度、シナリオライターさんからの指定があるんですけど、その指定と自分のイメージが合わなかった時ですね。シナリオさんの指定はテキストだけなので、どうしても思い浮かべたものの違いが出てきます。

霜月：そういう時は、どうやって擦り合わせをするんですか？

樋上：話し合って……。

霜月：でも、シナリオさんも、いろいろとご説明されるんですよね？

郷地：本当に文字資料だけですけどね。キャラデザ側としては、それを元にして描いたつもりなのに、シナリオさんに見せると「違う」と言われて、描き直したりしてるみたいです。逆にキャラデザ担当の樋上としても、「ここはオサゲでなきゃ！」というような思い入れがあったりして、それを盛り込んだり。……両者の妥協点が、今のキャラですね。

樋上：でも、『Kanon』のあゆに関しては、「絶対に譲らない！」とこだわりましたね。「これだけは、何と言ってもこれだから！」と言ってダッフルコートと羽を描きました。それでOKが通ったので、良かったんですけど。……実はリュックの羽は、私が勝手につけちゃったんですよ(笑)。

霜月：え～っ!?　勝手に付け

クリエイター同士の夢の対談を雑誌未掲載部分を加えた完全版で大公開!



樋上(ひのうえ) いたる
Key所属の原画家・イラストレーター。代表作は『Kanon』『AIR』『CLANNAD』など

霜月(しもつき) 絹鯊(きぬさ)
マンガ家。今作『Kanon』が商業誌での初連載となる

ちゃったんですか!? それにしては随分目立っていますけど。もはやトレードマークみたいな感じですよね。

樋上：最初は指定になかったんですけど、たまたまお祭りに行った時に、ああいうのが流行っていたんですよ。浴衣に付けている人がいたりして。それで、付けちゃおうと思いました。

翔月：一時期、流行ってましたよね。私も付けた事がありますけど、意外とかさばるんですよね(笑)。

樋上：あれは、結果的に良い感じになりましたね。

翔月：じゃあ、『Kanon』では、スムーズに決まったのが名雪、こだわったのがあゆという事になるんですね。

樋上：そうだったはず、です(笑)。ダッフルコートがすごく好きだったんですよ。羽もブーツも好きで。

翔月：あゆは、樋上さんの「好き」の塊なんですね。

●●●●● 性格を考慮して服装は決めます

――樋上さんが携わられた作品は、どの作品も制服が可愛くてユニークなデザインですよね。ああいったデザインは、どのように考えられるんですか？

樋上：今ならゴスロリと言うのか、そういうデザインが、すごく好きなんですよ。あまり意識してはいないんですけど、そのへんの好みを一部参考にしているかな。ジャンパースカートも自分が好きなんですよ。そう言えば『Kanon』の制服も、最初は黒くしたかったんですよね。でも、シナリオさんに「赤にしてくれ」って言われて。

翔月：あの形で黒だと、すごい事になりそうですね。シスターみたい(笑)。

樋上：赤というのは、早くから企画者の方のイメージにあったみたいです。

翔月：『AIR』だと、モノトーンの色調が作品にすごく合っていますよね。

樋上：私のイメージでは『Kanon』も黒だったんですよ。でも、後から思えば、『Kanon』も『AIR』も、制服に関してはあまりツッコまれなかった方でしたね。その分、『CLANNAD』では、シナリオ側から「『Kanon』とか『AIR』みたいな変な制服にしないで」と言われましたけど(笑)。だから、わりと普通にしたつもりです。

翔月：『AIR』の制服って人気ありますね。私も可愛いと思います。スカートのクロスのあたりとか好きなんです。

――あゆのリュックの羽は、私が勝手に付けちゃったんですよ

樋上：あれは私が十字架が好きなので付けました(笑)。『Kanon』では「大きなリボンを付けてくれ」という要求が最初にあったので、それを元に考えました。

翔月：後ろのリボン、可愛いですよね。リボンがお好きなんですか？

樋上：腰に付くようなリボンは好きですね。頭に付くリボンは、実はあんまり好きじゃないです。

一同：ええ～っ(笑)!?

翔月：そう言えば『CLANNAD』は、あまりリボンが付いてないですね。

樋上：あ、そうですね。無意識の間に私の好みが出ていたのかも(笑)。

――それぞれのキャラクターがどういう服装をするのかについては、基準があるんでしょうか？



水瀬 名雪
【みなせ なゆき】
主人公・相沢祐一が居候することになる親戚の家に住む女の子で、同い年はいとこ。祐一と同居することには、特に抵抗を感じていない(登場作『Kanon』)

『Kanon』
1999年に発表された、Keyの第1作目となる恋愛アドベンチャーゲーム。雪の街を舞台に、主人公・相沢祐一と5人の少女たちが織り広げる感動的なストーリーは、今なお熱烈な支持を集める



月宮 あゆ
【つきみやあゆ】
祐一の引っ越し初日、駅前で出会った少女。主人公とは別の学校に通っているらしく、その後も放課後の街中で何度となく出会うことになる(登場作『Kanon』)キャラクターイラストは前ページに掲載

『AIR』
2000年に発表された、Keyの第2作目の恋愛アドベンチャーゲーム。母から託された言葉の意味を求めて旅を続ける主人公・国崎往人が偶然訪れた田舎町で、神尾観鈴と出会った時に物語が始まる。メインヒロインが『神尾観鈴』

『CLANNAD』
2004年に発表された、Keyの第3作目の恋愛アドベンチャーゲーム。人との関わりを避けていた主人公・岡崎朋也は、ある朝、一生懸命に自己紹介の練習をする気弱な少女・古河渚に出会う

樋上：キャラクターの性格などは考慮していますね。真琴は最初、ジーパンをはいていたかな。とりあえず一度描いてみたんですがやっぱり修正になりました。

霜月：真琴がジーパンだと、イメージがガラっと変わりますね。真琴と言えば、実は微妙にツインテールじゃないんですよね。リアルで実現するのが難しそうな髪型ですよね。

樋上：そうですね。名雪も難しいですね。段があるんですけど、あれは忘れられやすいですね。髪型では『CLANNAD』の風子と智代の髪型は、すごく悩みました。智代が最後だったかな。最初はパーマがかかってて、フワフワしてたんですよ。

──私服もたくさん登場しますけど、あれは、どのように考えてらっしゃるんですか？

樋上：シナリオさんから「ボーイッシュな感じ」とか指定をもらいそれを元にして、その時々の流行を見ながら描きます。でも、実際にゲームが発売されるのは、ずっと先だから、ズレちゃうのが心配です(笑)。

郷地：その辺は、先読みして描かないと(笑)。

樋上：ムリムリ!! でも、私服を描いていても趣味が出ちゃいますね。結構シナリオさんと話し合いました(笑)。こっちが描いて「これでどうですか？」と見せると「俺はそういう好みやないなぁ」って言われて。でも具体的なイメージは出してくれないので、雑誌を持ってきて「じゃあここから選んでー」って、好みを選んでもらったりして。

霜月：ファッション雑誌ですか？

樋上：そうです。わりとカジュアルなものを選んで見せました。いわゆる若い人向けの(笑)。でも、シナリオさんは、そういうのにあまりグッとこないみたいなんですよ。どちらかと言うと、「そんなんありえへん!」みたいなマンガチックなデザインを好むらしくて……。

霜月：確かに普通見ない服ですもんね。

──たとえば、どのキャラですか？

樋上：『CLANNAD』だと、渚の私服でしょうね。ヒラヒラがあるんですけど、それがありえないヒラヒラさで(笑)。

霜月：シナリオさんの好みが、すごくよくわかりますよね。

樋上：シナリオさんの方が乙女チックですね(笑)。

『Kanon』の制服は、最初は黒くしたかったんですよね

●●●●● 色指定はスタッフみんなで

──デザインも見事ですが、色使いもすごく綺麗ですよね。色の指定は全部ご自分でされているんですか？

樋上：指定する時もありますけど、CGさんが直接塗る事も多いですね。

霜月：細かい部分の色の詰めは、どのように決められるんですか？

樋上：髪の毛の色などは、スタッフみんなで決めますね。会議をして、その場でモニターを見ながら調整します。「ああでもない、こうでもない」みたいな感じで(笑)。

──「これだけは譲れない!」と押し通したものは、ありますか？

樋上：基本的には、シナリオさんの意見を優先しますね。描いている時に自分でイメージしている色は、もちろんあるんですけど……。

霜月：特に意見が対立したキャラは誰なんですか？

樋上：「Kanon」では栞ですね。



伊吹 風子【いぶき ふうこ】
主人公・岡崎朋也の通う学校の1年生。いつも1人で、ナイフ片手に木片を彫っている大人しい印象の女の子（登場作「CLANNAD」）



沢渡 真琴【さわたり まこと】
記憶を失った少女。祐一の事が憎いという記憶を頼りに、強引に水瀬家に居座り、付きまとう。しかし祐一は、彼女に恨まれる覚えはなかった（登場作「Kanon」）



坂上 智代【さかがみ ともよ】
舞台となる学校に、この春から転入してきた2年生。実は、男が束になっても敵わないくらい喧嘩が強い。朋也より1学年下だが、全然年下らしくない（登場作「CLANNAD」）

髪の毛の色について、シナリオさんと全然意見が合いませんでした。

霜月：最終的には、茶色というか焦げ茶ですね。

樋上：そうですね。あれはシナリオさんの希望の色です。最初に塗っていた色は、確か紫が入った紺色のような感じだったんですよ。CGさんの初めのイメージは、そういう色だったんです。

――シナリオさんは自分のイメージと違う時、どういう風に仰るんですか？

樋上：「自分のイメージする色で塗ってみてくれ」って。後は何種類もの色の組み合わせを作って全体のバランスを見ながらみんなで考えたりもします。

霜月：キャラクターのイメージって、シナリオさんの頭の中にだけあるんですね。では逆に、すんなり色が決まったキャラというのは？

樋上：そうですねえ。あまりいないかなあ(笑)。でも『AIR』は、わりと早かったですね。『AIR』の神奈も一発OKだったと思います。好きに描いていいと言われたので、好きに描きました(笑)。

●●●●●「Kanon」で好きなキャラは？

霜月：キャラデザの方に聞くのはマズいのかもしれませんけど(笑)、『Kanon』で好きなキャラは誰ですか？

樋上：真琴ですね。ゲームをやる前とやった後で印象が変わりました。ゲームをプレイする前はあゆが好きだったんですけど、プレイ後は、真琴の天然っぽいところが好きになりました(笑)。

――結構、天然なキャラが多いですよね。霜月さんは、誰が好きですか？

霜月：名雪ですね。あの一途なところが。名雪をやってから他のシナリオをやると、せつなくなるんですよ。物語を進めるとガラッと雰囲気が変わって、それまで楽しかっただけに辛い。その辺りが、すごくうまいなあと思います。

――それでは最後に、樋上さんから今回のコミックについてのご感想をお聞かせいただけますか？

樋上：以前のP.N.である石本理沙さんのお名前は、アンソロジーとかで知ってたんですよ。この人に描いてもらえると聞いて、自分の好きなタイプの雰囲気の方だったので、すごく嬉しかったです。実際に描いていただいた内容の方も、本当に満足しています。ありがとうございました。

霜月：そんな事言っていただけるなんて、こちらこそありがとうございます。

郷地：最初に石本理沙さんのお名前を伝えておいたんですが、いつの間にかメールのお名前が霜月絹鯊さんに変わっていましたよね。それを樋上が見つけて「違う人やん！」って怒られました。

樋上：だって違う名前だったから(笑)。「ヤダヤダ！」って言ってた記憶が。

郷地：「いや、同一人物だから」と言って納得してもらいましたけど（笑）。

一同：(笑)

霜月：今後とも頑張って描いていきますので、よろしくお願いします。

樋上：こちらこそ、よろしくお願いします。

――本日は本当にありがとうございました。

シナリオさんは「そんなんありえへん！」みたいなデザインを好むらしくて……



古河 渚【ふるかわ なぎさ】
朋也と同じ学校の3年生。長期休学から復学を果たした日、朋也と出会う。たくさんの困難が待ち受けていたけど、朋也と共に頑張っていく（登場作『CLANNAD』）



美坂 栞【みさか しおり】
祐一が通う学校の1年生。病気のため休学していたが、祐一に出会い登校するように。だが、普段の明るい表情も、祐一の目にはどこか寂しげに映る（登場作『Kanon』）



神奈備命【かんなびのみこと】
千年前の夏が舞台の『AIR』SUMMER編に登場。人々の畏れを一身に受けながら、社殿に幽閉されて暮らす。柳也と裏葉に出会うことで、心を開き始める（登場作『AIR』）

石本 理沙【いしもと りさ】
霜月絹鯊氏の、以前のペンネーム。今回のコミック版連載を契機に改名したため、樋上氏の勘違いの原因になった

コミックスお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
霜月絹鯊と申します。

Kanonのコミカライズのお話を頂いた時、ダメ元で
「ヒロイン視点で描きたいっス!」と言ったら、思いのほか
あっさりと「いいですよ」と許可が下りまして、
名雪の物語を描かせて頂きました。

このマンガを描くにあたり、ビジュアルアーツにお邪魔
して、樋上いたるさんと対談するという、夢のような
経験もさせて頂きました。
話聞いた時は正直何のドッキリかと疑ったものです。
いたるさん、Keyの皆様、本当にありがとう
ございました!

ええと… Kanonへの愛とか語りたい事は
山のようにあるのですが。
いかんせん文章能力というものが
無くてダメですね…!

ありがたい事に、他のヒロイン達の物語も
描かせて頂ける事になりましたので、
2巻が出る頃にはもうちょっとうまい事
書けるよう頑張ります。ハイ。

それでは、2巻でお会い
出来ます事を祈って。

霜月絹鯊。



謝ありがとうございました。
→担当の丹羽さん、久瀬たつやさん、
樋上いたる様、Keyスタッフの皆々様

Kadokawa Comics Dragon Jr.

角川コミックス ドラゴンJr.

Kanon ホントの想いは笑顔の向こう側に 1

原作 **Key**

作画 **霜月絹鯊**

2007年4月1日初版発行

発行者／小川 洋

発行／富士見書房

〒102-8144 東京都千代田区富士見1-12-14 (03)3238-8591(編集)

発売／角川グループパブリッシング

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 (03)3238-8521(営業)

カバー・本文デザイン／伸童舎

印刷／暁印刷　製本／BBC

初出／ドラゴンエイジPure(富士見書房刊) vol.2〜3
月刊ドラゴンエイジ(富士見書房刊)2006年10月号・11月号

ISBN978-4-04-712490-5　C0979

9784047124905

1920979005204

ISBN978-4-04-712490-5
C0979 ¥520E

定価:本体520円(税別)

発行:富士見書房
発売:角川グループパブリッシング

通いなれた駅前への道を歩くわたし。
その先に待つのは、7年ぶりに再会する、いとこの男の子・相沢祐一。
……話したいこと、聞きたいことはいっぱいあるけれど、なによりもまず、こう尋ねるんだ。
「わたしの名前、まだ覚えてる？」
雪の街を舞台に、1人の少年と5人の少女たちが紡ぐ小さな奇跡の物語。
ヒロインたちの視点で描く新たな『Ｋａｎｏｎ』が始まる!!

